

2021 年度事業報告書

(2021 年 4 月 1 日～2022 年 3 月 31 日)

事業の状況

本年度の当財団の事業は、世界規模の新型コロナウイルス(COVID-19)感染拡大の影響を受け、状況に応じて柔軟に対応し、以下のとおり行った。

1. 助成事業

当財団は、情報科学の国際的研究交流を推進することを目的とし、研究者海外派遣助成、外国人研究者交流助成及び特定分野研究交流助成を行っている。

1.1 研究者交流助成及び外国人研究者交流助成

研究者海外派遣助成は、将来を担うべき有能な若手研究者を対象に海外で開催される情報科学に関する国際研究集会派遣のための渡航費及び滞在費の一部を助成するもので、外国人研究者交流助成は、将来を担うべき有能な外国人研究者又はそれを受け入れる研究者を対象に日本で開催される国際研究集会参加、又は日本の研究機関において共同研究を行うための渡航費及び滞在費の一部を助成するものである。昨年度に引き続き、本年度も COVID-19 の影響により、海外渡航が困難であり、また、国際会議の開催方法がオンラインを利用したデジタル開催、または現地のオンサイト開催も併用したハイブリッド型が主流となっていたことを踏まえ、助成事業の主旨の範囲内において助成内容及び方法について一部変更し、以下のとおり実施した。

日本に在住する将来を担うべき有能な若手研究者を対象に、海外で開催される情報科学に関する国際研究集会に参加するための渡航費または参加登録費の一部を助成した。

①募集・選考

助成募集要項及び申請書は 2021 年 8 月 18 日に財団ウェブページに掲載するとともに、9 月 1 日に大学等学術研究機関の情報系関連部署 200 ヶ所に募集案内を郵送した。8 月 18 日～10 月 31 日の期間公募したが、応募数が少なかったため、11 月 12 日に締切りを延長した。最終的に 8 件の申請があった。

11 月 25 日に電磁的な選考委員会を行い、審査のうえ、論文採録の条件付き内定 1 件を含む 5 件を採択した。

②決定・交付

選考委員会の選考結果を受け、理事長が 2021 年度助成金交付対象者を決定し、下記表のとおり 5 件(渡航費助成 2 件、会議参加登録費 3 件)に助成金を交付した。渡航費助成の対象者 1 名は渡航困難となりオンライン参加となったため、会議参加登録費の助成に変更した。

助成件数 5 件、助成金交付総額 305,679 円

氏名・所属	参加国際会議	開催国	助成金額
ISHII NATSUMI TIFFANY 東京大学大学院理学系研究科 修士課程 2 年	The 25th International Conference on Miniaturized Systems for Chemistry and Life Sciences – MicroTAS2021	アメリカ	160,000 円
内田 圭謙 名古屋大学大学院工学研究科 修士課程 1 年	14th IFAC Workshop on Intelligent Manufacturing Systems – IMS 2022	イスラエル	27,247 円
村山 知輝 早稲田大学大学院基幹理工学 研究科 修士課程 2 年	IEEE International Conference on Image Processing 2021 – IEEE ICIP 2021	アメリカ	40,000 円
SIRITANAWAN Prarinya 北陸先端科学技術大学院大学 先端科学技術研究科 助教	IEEE International Conference on Systems, Man, and Cybernetics – SMC 2021	オーストラリア	40,000 円
伊藤 祐二 広島工業大学大学院工学系研 究科 博士前期課程 1 年	IEEE International Symposium on Antennas and Propagation and USNC-URSI Radio Science Meeting – IEEE AP-S/URSI 2021	シンガポール	38,432 円

1.2 特定分野研究交流助成

ソフトウェア分野における情報技術の将来を見通した研究課題の提言を行うことを目的に、産学の研究者が協同で行う調査研究交流に対する助成であるが、2017 年 6 月の全体報告会后、本事業については休止している。

2. 競技会開催事業

将来を担う情報科学の若手研究者の育成のために、情報技術に関する競技会の開催及び関連する事項について以下のとおり行った。

(1) プログラミングコンテスト(ICPC2021)開催

競技開催費 2,941,398 円。

ICPC Foundationが年1回、世界的規模で開催している国際大学対抗プログラミングコンテスト(ICPC)のアジア地区予選としてICPC2021横浜大会を慶應義塾大学と共同で開催した。

①経緯

開催協力校を慶應義塾大学が務め、ICPC2021 横浜大会を行うことを ICPC 運営委員会の決議を経て理事長が決定した。

②実施概要

日程： 2022 年 3 月 15 日、16 日

方法： インターネットを利用したオンライン開催（神奈川県横浜産貿ホールにおいて現地開催を予定していたが、COVID-19 の状況が改善することなく、オンラインによる開催となった。）

主催：（公財）情報科学国際交流財団、ICPC 横浜大会実行委員会、慶應義塾大学

実行委員長： 高田眞吾（慶應義塾大学教授）

審判長： 鶴川始陽（東京大学准教授）

内容： 大学院、大学及び高等専門学校の同一校の学生 3 人が 1 チームを構成し、コンピュータプログラミングの正確さと速さを競う。世界大会出場のための選抜大会として、世界各地で地区大会が行われ、本大会はアジア地区予選に該当する。本選に先んじて、国内インターネット予選を 2021 年 11 月 5 日に行った。COVID-19 の影響を鑑み、参加条件等を緩和した国内予選参加ルールを作成のうえ実施し、87 校 275 チームが参加し、選抜ルールに則り本選に進出する 26 校 40 チームを選抜した。

2022 年 1 月になって COVID-19 の再拡大の傾向がみられたため、運営委員会で開催方法について1か月にわたり検討を重ねた。会場のある神奈川県での新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の公示があり、また出場チームに各大学等が定める移動や集合に関する制限などの状況を確認するためにアンケートを取ったところ、現地参加が困難なチームが複数あったことを踏まえ、予防対策を始めとする COVID-19 に関わる対応やそれに伴う参加者の不利益などを考慮し、一堂に会して現地で大会を開催することを断念した。オンラインを利用した本選実施に向けて、以下の内容を含む本選特別ルールを定め、告知及び周知徹底及びシステム運用の確認等を行った。

- ・ 参加できる場所はチームの選手のみが居る閉ざされた室内とし、その部屋の人数は同チーム選手であれば限定しない。
- ・ 使用できる計算機(PC)は一人 1 台までとし、チームの選手は同時にコーディングしてもよい。
- ・ 競技中、選手は自チームの選手とのみ、話をする事ができる。対面での会話のほか、スマートフォン等を使用しての連絡・相談をすることもできる。審判団に連絡する必要がある場合は、競技システム上の Clarification を利用する。
- ・ コンテストシステム(問題文の取得、解答の提出、順位表の確認など)の利用に際しインターネットにアクセスすることを認める。
- ・ チームメンバーの連絡に際しインターネット(SNS やビデオ会議システム等)及び携帯電話の使用を認める。
- ・ 印刷資料のほか電子的リソースの参照は認めるが、自動翻訳サイトの使用は認めない。
- ・ 参加者への信頼を公平・公正の担保するためルールを遵守する旨の誓約書の提出を求める。

コンテスト時間は 5 時間、問題(英文)は 11 問で、オンライン開催でのコンテストは、全チーム全選手の参加を得て、無事終了した。オリエンテーションや審判講評・結果発表・表彰式では Zoom(ビデオ会議システム)と YouTube Live(動画配信)で行った。懇親会では Gather.Town(オンライン交流ツール)を使用し、選手、コーチのほか、OB/OG や協賛企業のエンジニアなど多くの参加が

あり、盛会のうちに終えることができた。

運営に際しては、実行委員、審判団のほかに、ICPC の OB/OG の協力を仰いで行った。

参加数： 国内予選・・・ 87 校 275 チーム

横浜大会本選・・・ 国内 26 校 40 チーム

結果(大学順位)： 1 位東京大学、2 位京都大学、3 位東京工業大学

世界大会への進出チーム及び日程については未定となっている。

(2) 東南アジア地区大会への派遣

国内予選で優秀な成績を収めたチームを東南アジア地区大会へ派遣する計画であったが、COVID-19 に関連した ICPC Asia Pacific 2021-2022 特別ルールにより、自国で予選大会を開催する国のチームが他の地区予選大会に出場できないことから、派遣は行わなかった。

(3) 世界大会派遣

2019 年 11 月に行った ICPC2019 横浜大会で優秀な成績を収め決勝進出の権利を得た 4 チーム(東京大学・会津大学・筑波大学・京都大学)のうち、参加希望のあった会津大学チームを 2021 年 11 月 1 日～7 日にモスクワ(ロシア)で開催された世界大会へ派遣した。

以上